

特別選抜入試における各種検定試験の活用方策 ～英語資格要件の整備と運用の実際～

出光 直樹（横浜市立大学）

<http://www.idemitsu.info>

特別選抜入試と英語資格要件

- 2013年度新設の公募推薦(センター試験利用)を除き、特別選抜入試において、出願要件としてほぼ包括的に英語資格を設定。
- 指定校推薦は、国際総合科学部の募集人員の約22%、医学部看護学科では30%を占める。
 - 国際総合科学部の設置前は公募推薦(小論文+面接)として実施していたものを、指定校制(面接のみ)に転換。
 - 従前の公募推薦の入学実績で指定枠を設定した後、以後の新規・追加指定は、一般・AO入試等の入学実績に基づき設定。
 - 医学部看護学科では、2010年度から新規導入。
- AO入試は国際総合科学部で約7%を募集。

必修科目「Practical English」とTOEFL500

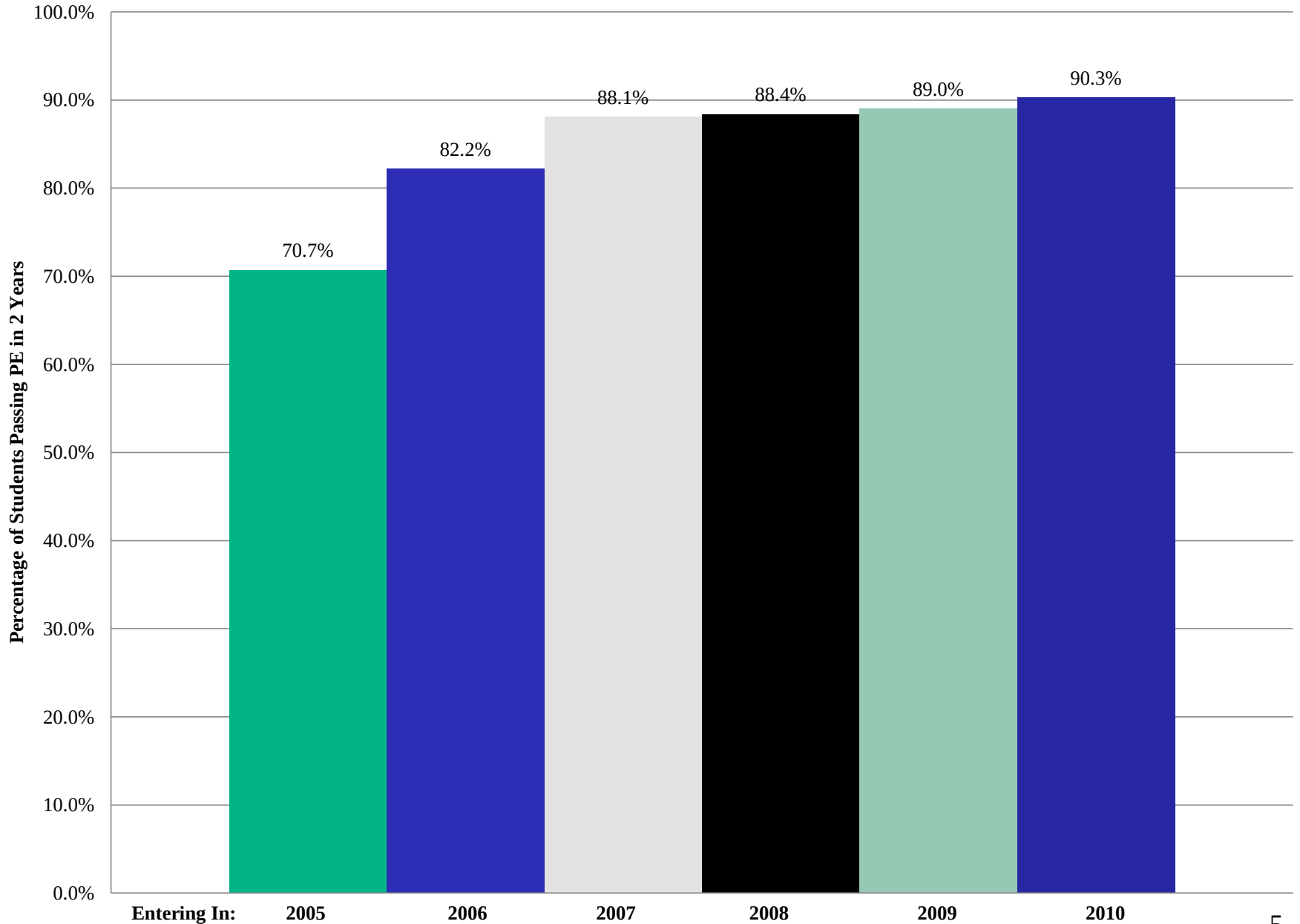
2005年の学部改組

- 商学部・国際文化学部・理学部を統合し国際総合科学部を設置。
 - 国際教養学系・経営科学系・理学系の3つの学系区分で募集し、2年次に7つのコースに進級。
 - 2013年度入学者より、国際都市学系を加えた4学系→12コース体制に。
- 医学部では、既存の医学科に加え、看護短期大学を改組して看護学科を増設。

「Practical English」の導入と 単位認定要件としてのTOEFL500

- 全学必修の「Practical English」(1セメ週3コマ3単位)を設置し、その単位認定要件にTOEFL-ITP500を設定。
- 8割の出席 & 期末試験としてTOEFL-ITPの受験が必須。
- ITP500に満たなくとも、TOEIC600 または英検準1級でも代替可。2013年よりIELTS5.0(各パート4.5以上)も加わる。
- 国際総合科学部では、PE修得が3年次進級要件に。
医学部(医学科・看護学科)では卒業要件に。
 - ただし、看護学科はそれより低い独自基準で運用
- 入学時点でTOEFL-ITP500(ないし相当)の資格を有していれば、履修免除で単位認定される。

College of International Arts and Sciences



3年次進級問題と Practical English Center の設置

- 2007年度に設置。
教授たるセンター長その他、
12名の常勤インストラクター、
10名の非常勤を配置。



横浜市大厳しすぎた？進級要件

昨春、地方独立行政法人となった横浜市立大学（横浜市青区）の看護学部とされる国際総合学部で、半数を超す二年生がのまちは三年への進級が難しい状態に陥っていることが八日、分かった。進級の要件として「英語運用能力テスト（TOEFL）五百点以上」が新たに設けられたため、大学側は「予想以上に厳しい状態と頭を痛めている」。

2年生過半数 留年の危機に

同学部は昨年、商・国ストのいずれかで、五割の学生が留年、留年のハードル多しとし、進級要件を厳格化した。進級要件を満たしているのは三百五十七人、入学生が繰り上げで半数を超す。進級のいける英語力有していし、留年に期待した教育そのものに疑問を投げかけている。横浜市中は、公立大、百は厳し。もう少し、同大にも、昨年ま

とての存在意義を高め、下げてもいいのではない、では三年次への進級要件を厳格化して、英か二年女子と要件のはなかった。例年、単位取得の進級を打ち出し、緩和を訴える者が続出し、不足卒業できない学生が、五割は留年している。自身は理系系だ、一割程度だ、たとえ、進級についていく、が、進級については、会、大学側は、新たな要件を設けた今年の留年率も二割に達した。専門の語が必要、者も二割に達した。予備でいた。

二年生は約七百四十人、TOEFLは、米国の大学に相当する外国、外、在生からは、二、キヤリア支援センター、英語運用能力テスト（TOEFL）五百点以上、が新たに設けられたため、大学側は「予想以上に厳しい状態と頭を痛めている」。

国際総合
科学部
TOEFL
500点
届かず

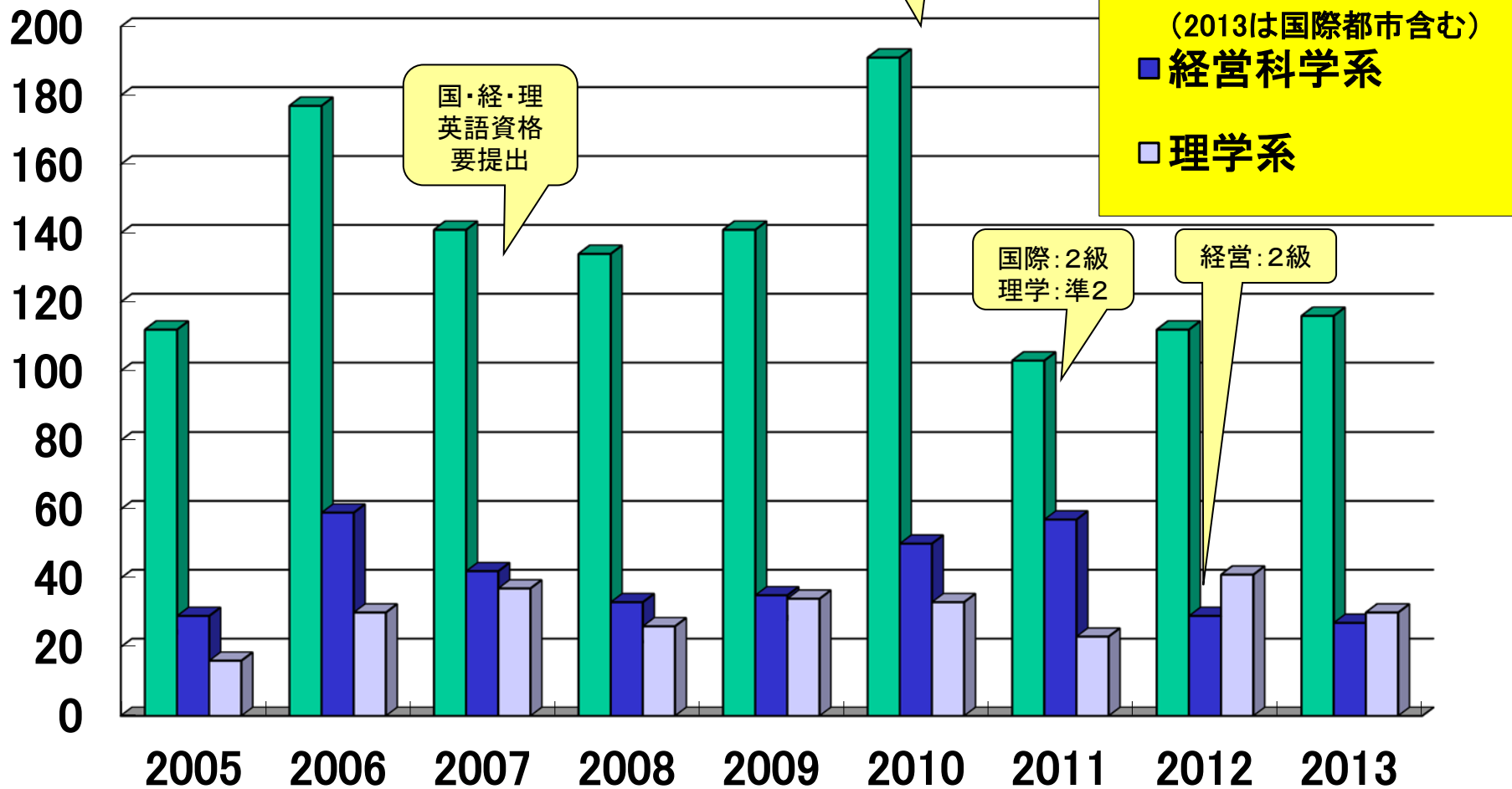
どうかを含め、今後検討していかなくては、大、留年、防止に頭を痛めている。

（横浜支局・木村留美）

英語資格要件整備のプロセスと運用

- 学部改組1期生の指定校推薦やAO入学者に、PE不振者が目立った。
- AO入試の志願者数の適正化と学力把握。
- 推薦指定校の学校間格差。高校での成績がトップクラスでも、一部に英語力不足の者の存在が露呈。
- 最初は級・スコアの定め無しで導入し、英語資格と合否の傾向や入学後の成績を見ながら徐々に引き上げ。
- 当初はTOEFL、TOEIC、英検の3種のみであったが、高校現場の普及に着目して、G-TEC for STUDENTSを追加。
- 志願者減少の懸念等に対しては、データにより説得。“提出がのぞましい”との妥協案も。
- 賛否はともかく、PEのカリキュラムポリシーが明確であるため、アドミッションポリシーとしての実質化へ。

AO入試志願者数



112	177	141	134	141	191	103	112	75+41
29	59	42	33	35	50	57	29	27
16	30	37	26	34	33	23	41	30

選抜区分別の提出資格内訳

(2012年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC	
指定校	104*	2	1.9%	16	15.4%	80	76.9%	14	13.5%
AO入試	182	11	6.0%	58	31.9%	146	80.2%	4	2.2%
帰国生	48	29	60.4%	18	37.5%	3	6.3%		
留学生	21	12	57.1%	9	42.9%				
社会人	2			2	100.0%				

*提出が必要な国際教養学系・経営科学系のみの集計

選抜区分別の提出資格内訳

(2013年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC	
指定校	171	1	0.6%	32	18.7%	120	70.2%	46	26.9%
AO入試	173	12	6.9%	69	39.9%	136	78.6%	16	9.2%
帰国生	55	33	60.0%	17	30.9%	5	9.1%		
留学生	19	6	31.6%	13	68.4%				
社会人	3			2	66.7%	1	33.3%		

選抜区分別の提出資格内訳

(2014年度の志願者 資格の複数提出あり)

	志願	TOEFL		TOEIC		英検		GTEC	
指定校	181	5	2.8%	34	18.8%	115	63.5%	33	18.2%
AO入試	139	8	5.8%	62	44.6%	97	69.8%	10	7.2%
帰国生	42	29	69.0%	13	31.0%	1	2.4%		
国際 バカロレア	5	4	80.0%			3	60.0%		
留学生	3	1	33.3%	2	66.7%				
社会人	5			5	100.0%				

入学後の成績追跡調査

- 学部改組1期生の2005年入学者が3年生になる2008年より、入試区分別の成績追跡調査を本格的に開始。
- PE合格率、成績(100点法のデータ)の平均、単位修得数の平均を集計。
- 選抜区分別の募集人員見直しや、推薦指定校の選定等の基礎データとして利用。

入学年度・学科学系・入試区分別 成績・単位数状況

※下表中  は、学科・学系別一般入試入学者の平均と同じかまたは高い数値を示す

2013年5月1日現在のデータによる集計

学科・学系	試験区分	2009年度入学					2010年度入学					2011年度入学					2012年度入学					4ヵ年計			
		入学数	PE合格数	PE合格率	平均成績	平均単位	入学数	PE合格数	PE合格率	平均成績	平均単位	入学数	PE合格数	PE合格率	平均成績	平均単位	入学数	PE合格数	PE合格率	平均成績	平均単位	入学数	PE合格数	PE合格率	平均成績
A	推薦入学																								14
	AO入試																								63
	帰国生																								18
	留学生																								13
	一般選抜	1																							15
	計	2																							72
B	推薦入学																								10
	AO入試																								15
	帰国生																								12
	留学生																								18
	社会人																								10
	一般選抜	2																							3
	計	3																							73
C	推薦入学																								14
	AO入試																								11
	帰国生																								14
	留学生																								13
	一般選抜																								13
	計	1																							74
D	一般選抜																								15
E	推薦入学																								18
	一般選抜																								10
	計																								77
総計		8																							79

入学後の成績追跡調査

- 指定校推薦入学者は、成績、単位数ともに高い傾向。しかし、PE合格率は今ひとつ。
 - 真面目な性格の学生が多く、PE留年しても全体の成績には、あまり影響を受けない。
 - 入学後のTOEFL合格率には、高校間の差がそれなりに出る。
- AO入学者の成績も比較的良い。
- どの区分の入学者においても、出願時に英検2級(相当)以上の資格を有しているかどうかで、入学2年後のPE合格率には差が出る。

今後の課題

- 高校生の学力把握インフラは？
 - 履修主義と修得主義
 - 高校の調査書と評定値
 - 各大学が別個に行う入試と、年に1回のセンター試験
 - SAT、ACT等の標準テストが普及している米国
 - 包括的な中等教育修了試験が行われるヨーロッパ&植民地系の諸国

- 英語に関しては、各種の試験があるが...
 - 教育再生実行会議の「達成度テスト」の行方
 - 数学や日本語能力に関するスコア型の試験の開発、普及を期待
- センター試験の目的外利用
 - 入学前の学習課題としてのセンター試験受験
- 文脈の中での学力評価
 - 試験問題の内容だけが大学の独自性か？
 - 様々な指標の確率的な組み合わせ